

女
伏

白秋全集
5

詩集
5

白秋全集 5

第三回配本(第1期 一・二・四巻)

一九八六年九月五日 発行

定価四三〇〇円

著 者 北 原 白 秋

発 行 者 緑 川 亨

〒101 東京都千代田区一ツ橋二丁目五番五
発行所 株式会社 岩波書店

電話 〇三・二六五二
振替 東京六二六四

落丁本・乱丁本はお取替いたします

目次

『海豹と雲』

序	五
古代新頌	七
水上	八
独神	一〇
言問	三
獵夫	三
青野	一五
蛭に	一六
狼	一九
岩礁	三
嚙む	三

木蘭吟 二四
 早春 香取神宮 二六

白き花鳥図 二七

水禽 二八

奉悼曲 二九

白鷺 三〇

白牡丹 三一

辛夷 唐画 三二

白 三三

柳鷺 三四

和み 三五

鮎鷹 三六

蓮の実 唐画 三七

鵲 唐画 三八

珠数かけ鳩 唐画 三九

鳩 元画 四〇

黎明 印度画題 四一

v 目 次

vi

架橋風景	．．．．．	壺
鳶	．．．．．	壺
七月の朝	．．．．．	穴
やや黄なる風景	．．．．．	丸
草の香	．．．．．	100
水盤の夏	．．．．．	101
風を祭る	．．．．．	101
鋼鉄風景	．．．．．	105
珠数工の夜	．．．．．	109
猫の乳	．．．．．	110
五月の朝	．．．．．	110
珠数工の夜	．．．．．	111
父と母	．．．．．	113
朴と月	．．．．．	115
池畔の撮影	．．．．．	116
夜露	．．．．．	117
天王寺の朝涼	．．．．．	119

朝なさな	三
墓地	三
蝶	三
ラヂオ風景	三
萼の花	三
不忍の晩涼	三
墓地の散歩者	三
五月の夜の空	三
煤	三
椎の葉	三
童話の月	三
月から見た地球	三
雪と狩獵者	三
童話の月	三
月と美童	三
昔の月	三
方丈	三

海豹と雲	二五七
汐首岬	二五八
曇り日のオホーツク海	二六〇
樺太の山中にて	二六二
老いしアイヌの歌	二六三
樺太風景	二六六
ある人の庭	二七〇
朝	二七二
かはらははこ	二七三
トラピストの牛	二七四
鴨	二七九
熊人	二八四
鴿	二五〇
子の鴿	二五一
蕾	二五三
田家の月夜	二五四
狐季	二五五

春の蚊・・・・・・・・・・・・・・・・一七

幼 童・・・・・・・・・・・・・・・・一八

春・・・・・・・・・・・・・・・・一九

日なか・・・・・・・・・・・・・・二〇

春の蚊・・・・・・・・・・・・・・二一

白 藤・・・・・・・・・・・・・・二二

魚の里・・・・・・・・・・・・・・二三

月夜孟宗の図・・・・・・・・一七

竹林幽居・・・・・・・・・・・・一八

雀と童・・・・・・・・・・・・・・一九

月夜孟宗の図・・・・・・・・二〇

朝 顔・・・・・・・・・・・・・・二一

吾が秋・・・・・・・・・・・・・・二二

母と子・・・・・・・・・・・・・・二三

かまつか・・・・・・・・・・・・二四

わたしが竹を・・・・・・・・二五

竹に交りて	105
十七日の月	105
かほよどり	106
あてのない消息	107
花	
楮	107
白蛾	110
月夜の風	111
秋立つ浜	111
句の秋	113
鶺鴒	113
鷹匠	115
胡蝶	116
翁	116
冬の日	117
草仮名	118
春朝	118
ぢいさまばあさま	119

後記	二四〇
----	-----

『海豹と雲』増補

〔アルス刊『白秋全集』第四巻〕

第二海豹と雲	二四七
古代新頌	二四八
懸巢	二四八
菊盛り	二四九
白き花鳥図	二五〇
みづのうへ	二五〇
風を祭る	二五一
冬の野	二五一
十月の都会風景	二五二
珠数工の夜	二五三
良夜	二五三
孔雀	二五四
夜ふかき墓地	二五五

歩みつつ	二五
月に	二六
冬	二六
童話の月	二五
白い月	二五
月と童	二六
なのりそ	二六
月に飛ぶもの	二六
月夜	二六
あけがた	二六
春朝	二六
海豹と雲	二五
童貞女	二五
蟹気楼	二七
半島旅情	二六
柘榴	二七
月の出前	二七
渚	二七

春の蚊	二五
身近な春	二五
寝すごした朝	二五
四月十一日	二五
電球	二五
卓上	二五
月夜孟宗の図	二五
犬蓼の道	二五
夕	二五
小謡	二五
草の葉	二五
月光の曲	二五
地上	二五
もくせい	二五
胡麻の実の秋	二五
落栗	二五
蛾	二五
風と蝶	二五

良夜	二五
初秋	二六
花楮	二七
うた	二七
花の盛り	二八
閑か	二八
へちま	二九
秋	二九
雲水	三〇
豊干	三二
唐子亮	三三
彼	三四
冬眠	三四
はつ冬	三四
冬晴	三五
小禽	三五
十二月三日の薄暮	三六
ざさんさ	三七